

旧門司駅舎跡の鉄道遺構の保存をめぐるわが党の見解について

2024年4月8日 日本共産党北九州市会議員団

(経過)

門司港地区複合公共施設整備事業に伴い、現門司港駅東側の建設用地内での発掘調査によって、敷地の地下に旧門司駅舎跡の鉄道遺構が発見された。

武内市長は、その取り扱いについて、「文献・資料を検証し、専門家の意見を伺って判断する」としていた。本市の文化財審議会のメンバーをはじめ、多くの専門家から「明治時代の鉄道関連遺構は国史跡級」として、現地保存を望む意見書や要望書が出されているにもかかわらず、本年1月25日には文化財指定の前提となる学術的評価、「価値づけ」をしないまま移築方針を決定した。

2月定例市議会本会議の議論の中で、「複合公共施設整備はじめにありき」で、事業を進捗させることを優先させ、学芸員が昨年12月4日にまとめていた「調査所見」を伏せ、「価値づけ」をしないまま、1月25日の市長記者会見で方針を発表し、同時に、前述の「調査初見」を福岡県に提出した。「価値づけ」の調査が文化財指定につながる可能性があることから、意図的にそれを避け、本市文化財保護審議会に諮問することなく、福岡県にも文化庁にも届け出をせず決定したのである。しかも、同「調査所見」は本市教育委員会が福岡県に提出したものであるが、教育長は内容を把握していなかったことも明らかになった。

本年2月22日、現地を視察した世界文化遺産の評価に関わる日本イコモス国内委員会は、この遺構を「国史跡指定」に値するものであり、現門司港駅や九州鉄道記念館とともに門司港レトロ地区を象徴する歴史遺産であり、日本の宝であるとする見解を示した。同委員会は、今回の市の移築方針の決定を遺憾として、現地保存を求める声明文を出し、2月29日に文部科学省、文化庁長官、福岡県知事、県教育長、県文化財保護課長に対して、遺構保存と活用への協力要請文書を送付している。

市当局は、2024年2月定例市議会に対し、2023年度の補正予算議案として、遺構の一部を切り出し移築し、建設予定地に複合公共施設を予定通り建設するため、「旧門司駅舎跡の鉄道遺構の移築に要する経費等」(20,000千円)を提出した。

この件に関し武内市長は、市民が複合施設建設を待ち望んでいるとしている。片山副市長は本会議で「地域の住民が守っていきこうという姿勢があって初めて文化財といえる」と発言した。しかし、遺構が事業計画を進めるなかで見つかったものであるにもかかわらず、遺構発見後、市民に対しては発掘調査中に一度現地説明会を行っただけで、門司区の各自治会長への説明や、地域での説明会もアンケートをとることも行っていない。

(わが党の立場)

本市においては、これまで城野遺跡など、いくつもの貴重な文化財が「価値づけ」されずに壊されており、本市の文化財保護行政そのものが大きく問われている。

今回の鉄道遺構の一部移築・保存について専門家は、貴重な文化財の破壊であると指摘している。市はそれを真摯に受け止め、いま一度、ここで立ち止まり、専門家の助言のもと改めて厳密な調査を行い、保存について慎重に検討すべきである。

また、門司港地域複合公共施設整備事業についてわが党は、災害時に市民のいのちと安全を守るための拠点となる区役所等を、高潮浸水区域に建てる無謀な事業そのものの見直しを一貫して求めてきた立場から、この事業に関連する予算に対しても反対した。

〔令和5年度一般会計補正予算、土地取得特別会計補正予算に反対〕

- 一般会計 「旧門司駅舎跡の鉄道遺構の移築に要する経費」 20,000 千円
（繰越明許費） 門司港複合公共施設整備事業 27,000 千円

※拙速な移築方針に反対する立場から、ハートフル北九州が提出した予算の修正動議に賛成した。

- 土地取得特別会計

（繰越明許費） 門司港複合公共施設整備事業 657,757 千円

※災害時に市民のいのちと安全を守るための拠点となる区役所等を、高潮浸水区域に建てる無謀な事業そのものの見直しを一貫して求めてきた立場から、この事業に関連する予算に反対した。

（認識の一致について）

わが党以外の会派は「門司港複合公共施設」建設を推進する立場である。しかし、昨年の市長選挙のしこりが残るなか、今回の遺構の取り扱いをめぐって、その一部を切り出して移築保存することを認めないとする修正動議を提案したハートフル北九州の会派内の構図、及びこれに賛成した自民、公明の真意を慎重に把握する必要があるとし、副市長が「旧門司駅関連遺構の取り扱いの協議」を各会派へ打診した。

- 「複合公共施設建設は市民の声」について

——武内市長は、複合公共施設建設について、それを求めていると市民の声をあげるが、遺構が事業計画を進めるなかで見つかったものであるにもかかわらず、遺構発見後、門司区の各自治会長や地域での説明は何ら行われていない。

- 可決した動議の「速やかな複合公共施設建設」について

——わが党は、少なくとも「旧門司駅舎跡の鉄道遺構の移築に要する経費」を認めることはできないとの立場で動議に賛成した、討論でも明確に述べているように、複合公共施設整備事業の見直しという立場に変わりはない。

「北九州市 旧門司駅関連遺構の取り扱いの協議を議会側に打診」について

(NHK 北九州 NEWSWEB より)

旧門司駅関連の遺構の一部を保存するために北九州市が予算案に計上した移築費用を、市議会が認めない判断をしたことを受けてこの遺構の保存のあり方などがあらためて注目されています。

こうしたなか、遺構の取り扱いや複合公共施設の整備に関して市側が、議会側に対し、「それぞれの認識を確認・共有したい」などとして協議を打診していたことがわかりました。

1891 年に開業した旧門司駅の機関車庫の基礎部分などとみられる遺構

は、北九州市が門司区で整備計画を進めている複合公共施設の予定地で見つかったものです。

市は遺構の一部を保存するため、移築費用の 2000 万円を今年度の一般会計補正予算案に計上していましたが、今月 8 日の本会議でこの費用を除外した予算案の修正案が、議長を除く議員 56 人のうち 50 人の賛成で可決され、議会としては遺構の一部移築を否定した形となりました。

遺構をめぐるっては現地での全面保存を求める声を含めてさまざまな意見があるなか、あらためて保存のあり方や取り扱いについての対応が焦点となっています。

こうしたなか、市側が、予算案の修正案を出した「ハートフル北九州」のほか、修正案に賛成した「自民党・無所属の会」「公明党」「共産党」に協議を打診していたことがわかりました。

市が打診した協議の案によりますと、予算案の修正を行った議会の決定を重く受け止めているとした上で、「遺構を適切に取り扱い、かつ、複合公共施設整備を着実に進めるため、市議会と執行部のそれぞれの認識を確認・共有し、市民に適切に情報を提供するために協議の場を設ける」などとしています。

これについて「ハートフル北九州」と「自民党・無所属の会」それに「公明党」は協議への参加の意向はないということですが、「共産党」は参加の可能性を示唆しています。

武内市長は、遺構の移築費用を除外した今回の修正案の提案理由の説明や質疑からは、議会側の真意がよくわからなかったと述べていて今後の市の対応が注目されています。

※「参加の可能性を示唆」との報道については、市の打診はあくまでも「協議」であり、わが党の立場を公開の場で表明することに何ら問題はないと考える。ただし、議員団としての対応であることから、議員団として議論して最終的な態度を決めるということ述べたことで、「示唆」という表現になったものと考え。

この協議の打診に対して、3月12日、わが党に対して示された文書には、他党派に示されていた「今後の同遺構の取り扱いについての決定的な確認事項」が欠落していたことが明らかになった。3月15日、欺いてわが党を協議の場に引き出し、市長の思惑通りに事を運ぼうとした所業は公党に対する極めて重大な背信行為であり、謝罪とマスコミを通じてそのことを明らかにすることを求め、市長に抗議した。しかし、それに対して謝罪もマスコミへの報道もない。

わが党は、引き続き複合公共施設整備事業の見直しを求める。同時に、発見された遺構については、現地での全面保存を求める多くの団体や専門家の意見を踏まえ、更なる徹底した調査と、専門家によるしっかりとした検討を求めるものである。

2024, 4, 8